

## ＜温室効果ガスの見える化＞

### 1 論点

- ① 欧州などで環境情報の開示の取組が先行する中での我が国の実態に合った開示方策の検討
  - 食品関連事業者は、サプライチェーン全体で温室効果ガス排出量の算定や削減目標の設定等に取り組んでいるものの、現行のScope3の算定方法では関係者の削減努力の反映が困難であることや、個々の事業者の対応には膨大な作業とコストを要している状況を踏まえ、算定方法の簡易化・体系化が課題として挙げられた。
- ② 脱炭素化の取組促進と、消費者にも分かりやすい可視化の在り方の検討
  - 環境負荷の算定方法や表示への取組には、膨大な作業とコストを要する一方、製品への環境情報のラベリングは、消費行動の変容のための可視化として必要性が高いことから、消費者の認知度及び訴求力の向上が課題として挙げられた。

### 2 目指す方向性

- ① サプライチェーン全体での脱炭素化を推進するとともに、その取組を可視化し、気候変動対策への資金循環や持続可能な消費行動を実現。
- ② 2050年までに、農林水産業のCO2ゼロエミッション化の実現。

# 各作業部会の進捗状況

## <有機>

### 1 論点

#### ① 有機食品の需要喚起に向けた消費者の理解醸成のための方策の検討

- 有機食品が環境保全に資するという価値が消費者の十分な理解を得られていない状況を踏まえ、有機食品が有する価値の消費者への訴求方法等を検討し、具体のイベントや情報発信による成果を検証する取組の実施を検討することとなった。

#### ② 安定調達や共同配送などの物流の合理化・コスト削減

- 個配が主流で、輸送コストが割高となっている現状を踏まえ、多数の産地・事業者がシェアできる有機農産物等の共同運送システムを構築し、流通コストの削減が可能かについて検証することとなった。

#### ③ 産地と企業の連携のあり方 等

- 有機加工品の原料の多くが外国産である状況を踏まえ、産地からの調達も含め、国産原料有機加工食品のシェア拡大に向け、調達から加工・販売までの課題を明らかとするため、国産有機加工品の可能性を検証する取組を検討することとなった。

### 2 目指す方向性

#### ① モデル地区の創設による生産の拡大と、消費者の理解醸成や多様な販路の確保による市場の拡大を同時に推進。

#### ② 2050年までに、オーガニック市場を拡大しつつ、耕地面積に占める有機農業の取引面積の割合を25%（100万ha）に拡大。

# 各作業部会の進捗状況

## <ESG／人権>

### 1 論点

#### ① ESG対応に関する理解醸成と取組の拡大・充実

- ESGに係る食品関連企業勉強会の成果である「ESG課題別の企業の実践内容」について報告及び議論を行った。
- 「ESG投資に係る食品産業等への影響調査委託報告書」及び「農林水産業・食品産業に関するESG地域金融ガイドライン」について紹介を行い、自社のサプライチェーンでの活用等を要請を行った。
- ESGの情報開示の国際的な動きとしてIFRS財団における気候変動関連開示基準の策定の動きについて報告及び議論を行った。

#### ② 持続可能な原材料調達や人権問題への対応に関する具体的な取組手法の特定

- 「ビジネスと人権」に係る政府の動きについて報告及び議論を行った。
- サプライチェーンにおける人権等情報システムの構築についてメンバー企業から提案を行い、議論を行った。

### 2 目指す方向性

- ① 「みどりの食料システム戦略」の実行推進。特に、持続可能性に配慮した輸入原材料調達についての目標の実現。

# 各作業部会の進捗状況

## <アジア・モンスーン地域への貢献・調達多様化>

### 1 論点

- ① 東南アジア各国と締結した共同文書を踏まえた官民連携の在り方を検討
- ② 高温多湿の気象条件、水田主体の農業、中小規模農家の割合の高さなどの地域の特徴を考慮
- ③ 共同研究・二国間プロジェクトなども活用した課題解決アプローチ

- 農水省から、東南アジア各国との共同文書の内容、その背景にある食料システムサミットの開催、及び、AMAF+3での取組や官民連携で活用できる事業など、東南アジアでの取組状況の説明を行い、官民連携の取組方針を議論した。（第1回）
- メンバー及び一部オブザーバーから、東南アジアにおける取組・課題の紹介とそれを踏まえた官民連携のアイデアを提案し議論を行った。（第2回）
- メンバー等の関心事項を踏まえ、官民連携プロジェクトの具体的な実施方針・スケジュールを議論した。（第3回）
- タイなどを対象に、現地生産者の組織化支援などを通じた、持続可能な農業・食料システムの構築に取り組んでいくことを確認。今後、具体的なパイロット・プロジェクトの策定作業を開始予定。（第3回）

### 2 目指す方向性

- ① 東南アジア各国と我が国民間セクター双方が裨益する持続可能な農業・食料システム構築と同地域での日本のプレゼンスを向上。

# 作業部会スケジュール

～12月

1月～5月

6月～

12/16  
第1回円卓会議

6/16  
第2回円卓会議

GHGの  
見える化

10/12第1回見える化  
検討会  
…簡易算定シート  
見える化ガイド  
の進め方を検討

1/24第2回見える化  
検討会  
…簡易算定シート  
見える化ガイド  
の内容を検討

2/22第1回作業部会  
…GHG見える化  
をめぐる  
課題の整理

3/1第3回見える化  
検討会  
…簡易算定シート  
見える化ガイド  
の取りまとめ

第2回作業部会  
…見える化検討会  
の結果を報告、  
議論

有機

2/17第1回作業部会  
…有機をめぐる  
情勢の報告、  
課題の整理

4/14第2回作業部会  
…課題ごとに解決に  
向けた方針を検討

第3回作業部会  
…課題ごとに  
順次開催

ESG/  
人権

2/14第1回作業部会  
…ESGに関する  
勉強会の  
報告・議論

4/26第2回作業  
部会  
…ESG委託調査  
の報告、議論等

第3回作業部会  
…具体的課題解決  
に向けた議論

アジア・  
モンスーン

2/15第1回作業部会  
…日本・東南アジア  
各国政府の取組の  
報告・議論

3/23第2回作業部会  
…民間セクターによる  
東南アジアでの取組と  
課題の報告・議論

6/10 第3回作業部会  
…具体的な官民連携の  
実施方針・スケジュール  
を議論